

令和5年度 学校評価

■ そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思う
 ■ どちらかといえば、そう思わない
 ■ そう思わない
 ■ わからない

①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 道徳・心の教育の充実
学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。	学校は、豊かな人間性を育む心の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）
委員会活動を軸に児童が主体的に活動し、全校児童に働きかけることで、お互いの良さを認め、仲良くしていこうという意識の高まりが見られた。コロナの規制も緩和され、昨年度より地域や保護者、いろいろな機関との交流が増え、児童は体験を通して多くのことを学び、感性を育む機会が増えた。いじめや不登校に関しては、普段の様子のみとだけでなく、毎月のなかよしアンケートや無記名式の心のアンケートで、確実に児童の実態把握に努める。また、年3回の一人一人への教育相談を行い、きめ細やかに対応していく。	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

3 授業力向上	4 タブレット端末活用
先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。	子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。
校内研修では昨年度に続き「対話を通して協動的に学び続ける子どもの育成」をテーマに、授業研究を行った。今年度も日常的な授業の中で探究的な学習プロセスを大事にしながら、STEAM教育に取り組んだ。地域を題材にした実生活・実社会につながる問題から課題を設定することで、進んで学習に取り組み、友達と協働して課題解決をしていく子どもたちの姿がたくさん見られた。	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

5 学校の支援体制	6 共生社会を担う人材の育成
学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。	学校が行っている「交流及び共同学習」等は、相互理解につながっていると思いますか。
担任による年3回の児童への教育相談や「子どもを見つめる会」等で職員の共通理解を実施しており効果は高い。SC等を含む特別支援教育について周知してきたことで昨年度「わからない」という回答が25%あったが、本年度は18%に減少した。しかし、まだ、特別支援教育に関する発信を強化し周知を高める必要がある。	

④ 学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止	8 家庭や地域との連携協力
<p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。</p>
<p>引き渡し訓練を4年ぶりに実施できた。避難訓練、交通安全教室等を実施していることで、教員、子どもの安全に関する意識は高いが、保護者は低い傾向がみられる。また、各学年で組んだカリキュラムをもとに地域とつながる学習を進めてはいるが、保護者にその取り組みが十分に伝わっていないと考えられる。自転車の乗り方やヘルメット着用推進、地域学習も様子等についても学級通信や懇談会等を通じて積極的に保護者に働きかけていく。</p>	

⑤ 本校の教育

9	
<p>本年度、以前に比べ子どもは、自ら主体的に行動できていますか。</p>	
<p>コロナウイルス感染症も5類になり4年ぶりに開催された浪漫フェスタを筆頭に積極的に行事に取り組んだ。すべての委員会から企画実行され8割の子どもたちが主体的に行動できたと回答している。地域の方、公民館の方、都市デザイン課、県立大学等のゲストティーチャーを招き、専門的な深い学びができた。HPなどで子供たちの様子は発信しているが、保護者の「わからない」が10%あり、周知していく努力が必要である。</p>	

来年度の具体的な取組について

- いじめや不登校に関しては、普段の様子のみとりだけでなく、毎月のなかよしアンケートや無記名式の心のアンケートで、確実に児童の実態把握に努める。また、年3回の一人一人への教育相談を行い、きめ細やかに対応していく。
- 「steam教育」を通じた「探究的な学習」をさらに充実させ、地域、産学官連携を中心として実社会とシームレスな資質・能力を育成する研究を推進する。
- 委員会活動を中心として企画運営をする機会のある場を設定し協働的に話し合い改善していく取り組みを行う。来年度も学校保健委員会で「体力」を引き続きテーマとし学校全体で健康体力について取り組む。
- カリキュラムマネジメントを通じた「地域学習」及び「学校行事」等についてHPや通信等を通して保護者等に情報を開示していく。
- 特別支援教育の取り組みを学校だより等で保護者地域に周知していく。

学校関係者評価

- 登校班では交通の仕方や挨拶の改善が必要である。
- 郷土愛や地域に誇りを持つSTEAM教育はとてもよい。地域の中で子供たちは育っていくので引き続き実践してもらいたい。
- コロナウイルス感染症が5類になり地域行事等も実施された。子どもたちの主体的な姿がとてもよかった。
- 産学官連携で外部や友達と協働しながら学習するスタイルは、子どもたちにとってよい学習となっている。
- 不登校傾向の子どもたちにも寄り添い、様々なつながりを作ってもらいたい。
- 体力向上が課題である。授業のカリキュラムを工夫したり遊びを奨励するなどし、体力向上する機会を作ってもらいたい。